

フォーラム

まち・みち・たてものを、愛でる・いじる・生かす

女神像が見た 浦和のまち

単なる宿場町だった浦和は、明治になって県庁が置かれ、歴史の表舞台に顔を出します。

そこから今日「文教都市」と呼ばれるようになるまでに、どのような要因が関係してきたのでしょうか。

大正末に岡田信一郎設計になる旧埼玉会館が建てられ、その塔の先端には「女神の像」がありました。彼女は初めて空の高みから、このイラストにあるように、浦和のまちを俯瞰したのです。

彼女がいた期間は短かったのですが、その視点を借りて、今日にいたる浦和のアート・マップを眺めてみましょう。

2023年

3月18日(土)

16:30～18:30 (開場; 16:00)

埼玉会館 3C会議室

(聴講無料、事前申込優先; 定員50名)

● 基調講演

島田有美子

元うらわ美術館学芸員

● コメンテーター

青山恭之

建築家、アトリエ・リング

山海隆弘

(公財)埼玉県芸術文化振興財団

シニア・アドバイザー

連携事業

旧中山道文化資源再生プロジェクト「美術と街巡り・浦和」

2023年3月2日(木)～19日(日) 浦和駅西口(旧中山道浦和宿)周辺

主催：公益財団法人 埼玉県芸術文化振興財団

協力：美術と街巡り・浦和実行委員会